

カリキュラムの整備状況

1 目標、内容、育てたい資質・能力・態度、年間活動計画、各教科等との関連

● 結果と考察

次の各項目が設定してあるか。

- ・学校としての目標 (質問1)
- ・学年の目標 (質問2)
- ・育てたい資質・能力・態度 (質問3)
- ・評価の観点 (質問6)
- ・評価規準 (質問7)
- ・発達段階に応じた学習内容 (質問10)
- ・年間活動計画 (質問11)

「育てたい資質・能力・態度」「年間活動計画」は、
小・中学校とも約9割が設定

「設定してある」と回答した割合
が高い項目は、

学校としての目標

(小学校84%、中学校82%)

育てたい資質・能力・態度

(小学校96%、中学校85%)

発達段階に応じた学習内容

(小学校94%、中学校82%)

年間活動計画

(小学校100%、中学校94%)

である。一方、まだ設定していない学校(「検討中」「計画はない」)

が比較的多く見られる項目は、

学年の目標

(小学校25%、中学校30%)

評価の観点

(小学校22%、中学校32%)

評価規準

(小学校39%、中学校59%)

である(図1、2)。

これらのことから、ほとんどの学校では、試行期間も含めたこれまでの間に、「育てたい資質・能力・態度」や「発達段階に応じた学習内容」を設定し、「年間活動計画」の作成を先行させてきたことが分かる。そのため、学校によっては、今年度もカリキュラムの整備に向けて、

「学年の目標」や「評価の観点」、

「評価規準」の設定等に取り組んでいるものと思われる。

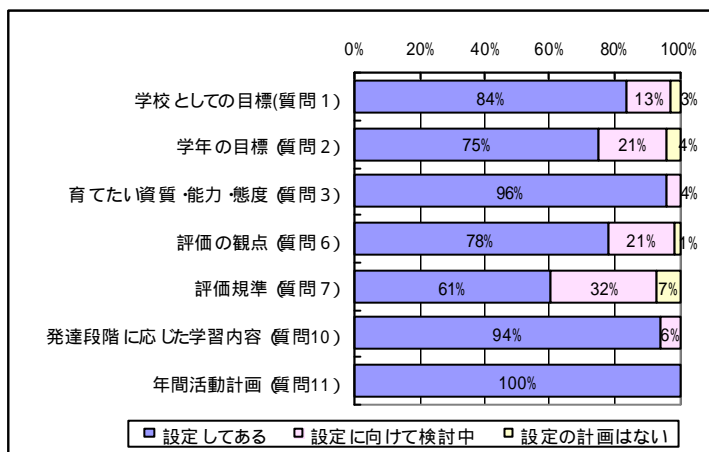


図1 カリキュラムの整備状況(小学校)

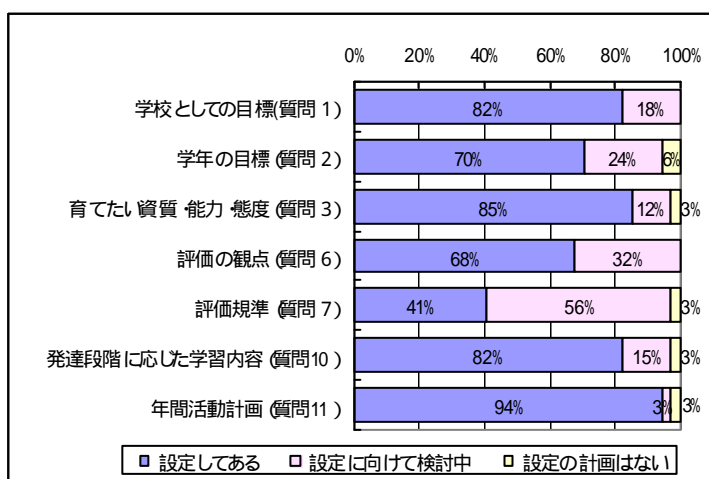


図2 カリキュラムの整備状況(中学校)

育てたい資質・能力・態度を何に基づいて設定したか。 (質問4) * 複数回答

学習指導要領のねらいに基づいて設定したのは、 小学校約9割、中学校約8割

育てたい資質・能力・態度を設定するに当たり、学習指導要領に示された「『総合的な学習の時間』のねらい」に基づいて行っている学校は、

小学校90%、中学校76%

である。また、「自校で定める目標や内容」に基づいて設定している学校は、

小学校46%、中学校47%

で、その中のほとんどの学校は、学習指導要領のねらいと組み合わせている。

一方、「各教科等の目標や内容との関連」を明確にして設定している学校は、

小学校28%、中学校18%

である(図3、4)。

学習指導要領のねらいには、児童生徒に身に付けさせたい資質や能力、学び方等が示されており、それらを具体化して設定した学校が多いことが分かる。しかし、教科等の目標や内容との関連を明確にして設定

している学校は、小・中学校ともに割合が低い。これは、試行期間も含めたこれまでの間に、学年ごとに各教科等のねらいや内容を分析し、「育てたい資質・能力・態度」として具体化するといった時間が十分にとれなかったためではないかと考えられる。

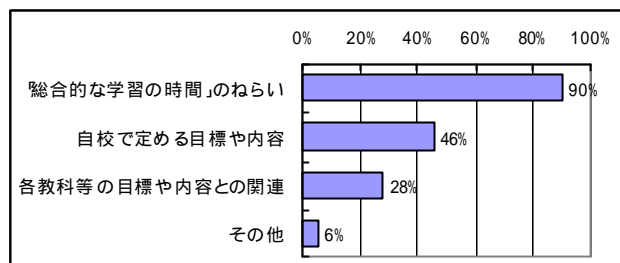


図3 育てたい資質・能力・態度の設定で基にしたもの(小学校) 複数回答

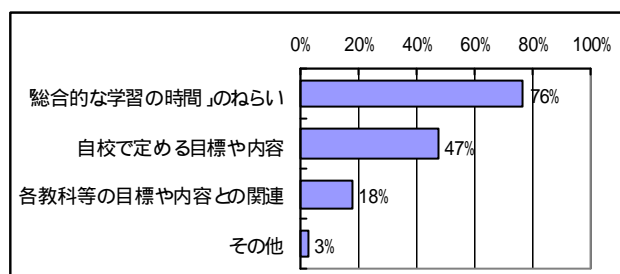


図4 育てたい資質・能力・態度の設定で基にしたもの(中学校) 複数回答

各学年の年間活動計画が作成してあるか。 (質問11の内訳)

小・中学校とも7割が、学校全体で系統的に作成

年間活動計画は、ほとんどの小・中学校で作成されている。その中で、職員間の共通理解の下に、学年の発達段階を踏まえて、「学校全体で系統的に作成」しているのは、小学校71%、中学校74%

である(図5)。

このことから、約3割の小・中学校では、学習内容等において、学年間のつながりが図られていない様子がうかがえる。

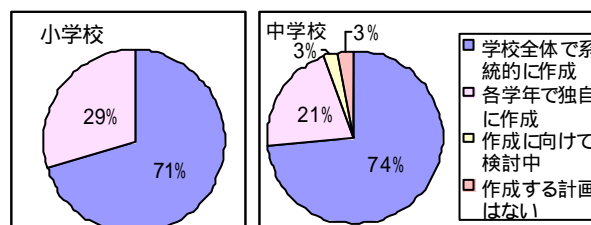


図5 年間活動計画の作成状況

各単元のねらいや学習内容と各教科等との関連はどのように図られているか。(質問12)

小学校の約5割は、「年間活動計画に位置づけている」
中学校の約5割は、「各教科担任と連絡を密にしている」

「総合的な学習の時間」と各教科等との関連をどのように図っているかを見ると、小学校では、主に

年間活動計画に位置づけている(54%)

各単元計画の中に示されている(35%)

適宜単元を入れ替えている(35%)

ことによって関連を図っている(図6)

これに対し、中学校では、明文化されてはいないが、主に、

各教科担任と連絡を密にしている(53%)

適宜単元を入れ替えている(32%)

ことによって関連を図っている(図7)

このような小・中学校間の取組の差は、学級担任制と教科担任制との違いによるものと考えられる。

小学校では、学級担任が各教科等の指導を行う場合が多く、「総合的な学習の時間」のカリキュラム全体との関連を視野に入れて、それぞれの年間計画を立てやすい。これに対し、

中学校では、各教科担当ごとに年間計画を立てて実施することが多く、学年ごとに行う「総合的な学習の時間」の計画や実施の時期とずれが生じてくる。そのため、計画段階よりも実施中に両者の関連や時期の調整を図ろうとしているものと思われる。

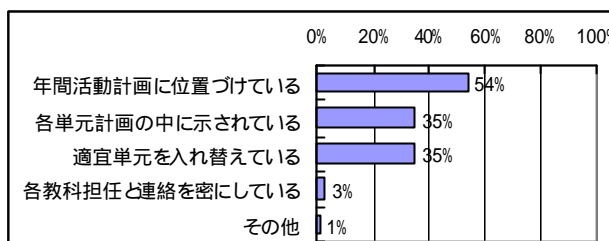


図6 各教科等との関連の図り方(小学校)

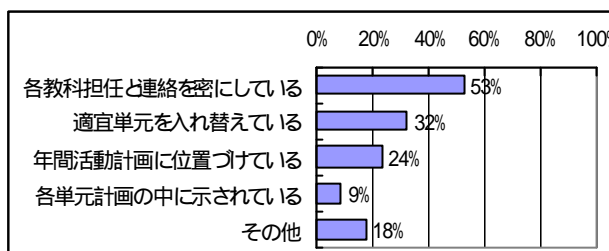


図7 各教科等との関連の図り方(中学校)

● 課題

以上の結果から、県内小・中学校における「総合的な学習の時間」のカリキュラム全体の整備状況に関して、次のような課題を挙げることができる。

「総合的な学習の時間」における**学校としての目標や学年としての目標**を設定する。

学習内容や指導内容を教科等との関連から分析し、**具体的な評価規準**を作成する。

・評価規準がまだ作成されていない学校が、小学校で約4割、中学校で約6割見られる。

・「育てたい資質・能力・態度」を設定するに当たり、教科等との関連を明確にしている学校は、小学校で3割、中学校で2割と低い。

年間計画の作成では、**各教科等との関連**を明確にし、**学年の発達段階**を踏まえて学習内容に系統性をもたせる。

・「総合的な学習の時間」と各教科等との関連について、中学校では、年間活動計画に位置付けている学校が2割、単元計画の中に示している学校が1割と低い。

「総合的な学習の時間」の**全体計画**を作成し、**学校としてのカリキュラムを整備**する。